

小 原 豊

筑波大学人間総合科学研究科研究員、鳴門教育大学教員教育国際協力センター助教授を経て、2007年度より産業社会学部准教授に着任。本来の専門は数学教育ですが、現在は知識社会学や国際協力に関して幅広く研究しています。特に、国際協力機構 (JICA) 関連の仕事が多い関係上、多文化共生の視野を子ども理解に活かしています。

1. 専門演習の目標

様々な次元の具体的な異文化体験と共に、文化的な他者性 (otherness) や寛容性 (tolerance) のあり方を知り、社会を生きる上での基本的なコミュニケーションについて深く理解する。また、多様な価値観をもって教育という事象を捉え、共生を尊ぶ態度を培うと同時に、知識社会学や認知心理学などの高い専門性に基づいた人間理解の幅を広げる。

2. 専門演習で扱う課題と内容

ある時代や場所で“正しい”とされた知識が、他の時代や場所では全くの“間違い”となることがある。これを進歩として一面的に論じる程、人は単純ではない。本演習では、そんな文化相対性が生み出す諸問題を、子ども支援や多角的な視野に立った人材の育成に関連して議論していきます。人は自らと異なる考え方や習慣、価値観に触れたとき、少なからず衝動 (カルチャーショック) を受けます。その異文化体験が、いかに視野の狭窄を防ぎ、どのような感受性を培っていくのかを理論的、実践的に探究していきましょう。また本ゼミでは、“異文化”を国家や民族等のマクロな視野に限りません。現3回生諸氏も、昭和と平成の「世代間」の遊び文化差、京都における「男女間」の性文化差、大阪と東京の「地域間」のお笑い文化差、日本と韓国、仏国の「国家間」の学校文化差、「理系・文系間」の交友文化差など、多種多様なテーマで協力して人間理解を進めると同時にそれを子ども達に伝える gimmick (仕掛け) を探究しています。

3. 授業の進め方・内容

ゼミ生諸氏と相談の上で決定しますが、基本的にゼミ生主体で授業を運営して頂きます。

3回生では、前期に基本文献の講読と、関心別のグループ単位で研究テーマを選定し、後期からはフィールド

ワークと共にその知見共有や共同的な検証を進めていきます。そして、4回生から個人単位での研究活動を始め、後期にはその成果を卒業研究として集約します。

4. 必要とする知識

特定の知識というより、まず日頃から、様々な報道、メディア等にも目を通して複数の情報を比べることで、物事を多角的に考える習慣をつけて下さい。

5. 関連する分野・科目・知識

文化人類学、教育学、認知心理学、知識社会学。特に語学が堪能なら、上記の各分野について得られる知識も大きく広がりますが、これはゼミを通して必要な範囲で身に着けよう。

6. テキスト・参考書・機材 (受講生が標準的に持つもの)

現時点でテキストは指定しません。各自の研究課題に応じて、必要な資料を随時紹介します。特に比較教育、異文化論に関しては、様々な立場の書籍を幅広く読み込んでいこう。

7. 独自に付加する選考方法

必要に応じて面接

8. 受講生に望むこと

子どもが好きの方、アクティブに学べる方を特に歓迎します。ゼミにおいては、不明な点、疑問に感じた点を大切にして、決してそのまま放置せずに、その解消に努めて下さい。学校現場や一般企業、他大学などにフィールドワークを行います。興味あるフィールドには参加可能な余裕があることが望ましいですね。